

寶丹之服と霍亂吐瀉之救ふ事

凡人氣分常小からん大便せんと欲し厥小いたると急ぢ大い快く時吐瀉を
 發せりてあり實は忽がまよふと此の如き容體ありば早く此寶丹の量二三分
 と冷水を服し身體風ふりたるや暖む即ち心氣を安んずべし猶頻りに
 大便瀉らんとする氣味ありば再び二三分を服し首の後ろも暖む即ち心氣を
 足面部も漸く温む生れ後々全身悉く汗を發し後小便の利なることありし
 此のおと汗發し小便の通利を得せし是の病は治せり然れども吐瀉
 最も危急の變症とするに何れも一時宝丹を用ひて救ふことを得べし
 ども其地は病院良醫の設けありば速小ありま托し宜しく的確の療用と
 施し玉せんこと尤緊要と云ふ

○吐瀉の最も劇しく一時吐瀉し二三次も過ると忽ち頭面手足とも小厥冷又
 屈氣息絶る事あり然れども胸中温まればの早く此藥一渡四五分冷水
 小て口中より入て別は塩を炒熱し臍のあたり腰のすわり等と熨む暖むべし藥氣
 の内小充ると漸く身體は温と生れ終は其危急を救ふと宝丹の大効あり
 霍亂の中毒も吐瀉するもの別は腹痛つりこれや前を用ひて奇効を得

